

○【中瀬パークトーク2026】第3回市民ワークショップ 実施報告

1 日時・場所

令和8年8月30日（日）午後1時から午後4時まで
旧観慶丸商店 文化交流スペース

2 目的

中瀬公園の将来の利活用や管理運営のあり方を検討するため、これまでの2回のワークショップの結果を踏まえ、市民が実践したい取組と、それを受け止める公園デザイン・施設計画について協議することを目的に開催しました。

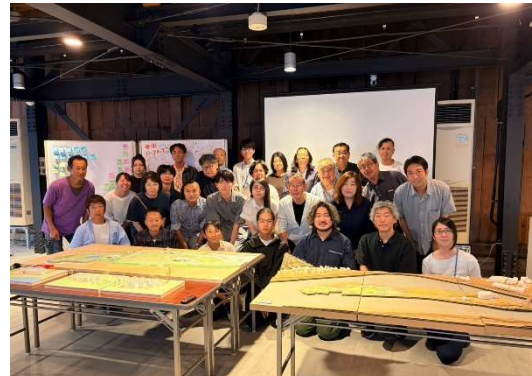
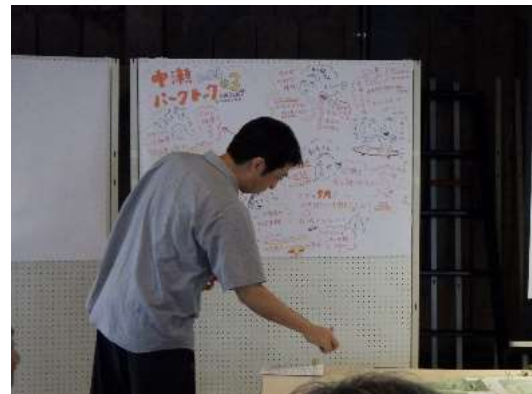
3 内容

- (1) 挨拶（事業スケジュール・運営体制など）
- (2) 第1・2回ワークショップの成果
- (3) みんなが取り組みたいこと
- (4) 取り組みを実現するエリアと施設

4 参加者

19名

5 状況写真



6 みんなが取り組みたいことの概要

7つの新しいアイデアや構想が披露され、活発に協議されました。

①なかぜワイナリー構想

中瀬公園だけでブドウを栽培しワインを製造することを目的としたものではなく、石巻市全体の農業・水産業・観光資源を結び付けながら、新たな地域ブランドを創出しようとする長期的なプロジェクトが提案されました。

②スケートボードパーク

スケートボードを中瀬公園における活動の一つとして取り入れる提案で、市民活動や公園利用の中の一つとしてスケートボードを位置付けたいとの考えが示されました。

③自然農法の実践

無農薬・無化学肥料による農業と循環型の資源利用についての提案で、生ごみの削減、食育、環境教育、農業体験につなげて循環させる考え方を市民に体験してもらう重要性が強調されました。

④商店街を巻き込んだコンポスト

野菜くず、卵殻、コーヒーかすなど、商店街や飲食店から発生する生ごみを回収し、コンポストとして活用する仕組みづくりで、堆肥化した上で中瀬公園内のガーデンや植栽管理に活用することが提案されました。

⑤水上スポーツ・水辺体験

中瀬公園は北上川に隣接する立地を有している特徴を最大限活かし、カヌー体験、川下り、宝探しイベント、水辺の自然学習、水難事故防止教育、フォトコンテストなどのアイデアが出されました。

⑥ビアガーデン・ビアフェス

市街地で開催されているクラフトビールイベントの実績を踏まえ、中瀬公園の開放的な空間を活用することで、飲食、音楽、ピクニック、地域交流を組み合わせた新たなイベント展開が可能で、単発ではなく、継続的に開催することで、来訪者の増加、市街地への波及効果、地域コミュニティの形成につながるとの考えが示されました。

⑦リ・ユース食器の活用

欧州のイベントで採用されているデポジット方式を参考に、使い捨て容器の削減、ごみ処理費用の削減、環境負荷の低減、を目指すもので、中瀬公園から市内全体へ展開することで、「環境先進都市・石巻」という新たなイメージ形成につながる可能性が示されました。

7 取り組みを実現するエリアと施設

これまでのワークショップの結果を踏まえた南エリアを中心とするゾーニング（案）と拠点施設（管理棟）計画（案）が説明されました。



8 参加者からの意見

- ・水辺活用こそ中瀬公園最大の個性であるとの意見が多く出されました。
- ・北上川を活用した活動や外国人観光客への案内、川を介した周辺地域との連携に期待が寄せられました。
- ・森づくりについては、開園時に完成するのではなく、30年～50年かけて育てるべきとの意

見が出された一方で、市民管理の負担や維持管理費への懸念も示されました。

- 運営体制については、意思決定の仕組みや市民参加方法を明確にしてほしいという意見が多くありました。
- 大手事業者が参入しても市民の想いが失われない仕組みの必要性が指摘されました。
- 教育利用として、野外炊飯、防災キャンプ、青少年教育活動への活用可能性が提案され、防災・減災の視点として、津波被災地であることを忘れない公園にすべきこと、水辺利用時の安全対策を徹底すべきことなどが意見として出されました。